

2026 年度 武蔵野学院大学 国際コミュニケーション学部
総合型選抜第 2 回の「小論文」

試験科目

①小論文 (60 点)

以下のテーマについて、試験日の当日に解答してもらいます。時間は 50 分です。

なお、解答の字数は 400 字～500 字程度の予定です。

設問

藤子・F・不二雄著『ドラえもん』において、ひみつ道具の「ほんやくコンニャク」を単に食べるだけで、ドラえもんやのび太が外国の人とコミュニケーションができるようになる、という場面が描かれている。現代では、そのようなフィクションがもはや現実のものになりつつある。DeepL などの翻訳アプリや、ChatGPT や Gemini などの AI を用いることで、外国語を学ばずともコミュニケーションを取ることが可能である。そこで、現代において、外国語を学習する必要性があるのかどうか、その根拠とともに具体的に論じなさい。